



上野公園の桜(庄原市)

会報



庄原ロータリークラブ
SHOBARA ROTARY CLUB
2012~2013年度

- 例会 会/火 曜日 12:30 庄原グランドホテル
/夜間例会 19:00 庄原グランドホテル
- 事務局/727-0013 庄原市西本町2-18-8 302号
TEL.0824-72-5500 FAX.0824-72-5500
E-mail:s-rotary@alto.ocn.ne.jp
- 会長/滝川 聖治 ●幹事/田邊 良三

2013年2月12日例会記録

28 (878)

■2013年2月19日のプログラム 創立20周年記念委員会
 ■次回のプログラム 国際奉仕委員会担当

会長挨拶

滝川会長



「吾妻山の由来」

皆さん今日は。今日は吾妻山の由来についてお話いたします。これにまつわる伝説が比和にはありまして、日本最古の書物である古事記がそれを裏づけているそうです。真偽のほどは判りませんが、今風にわかりやすくお話したいと思います。

多数の鉄製の武器が出来るようになった頃、イザナギ（男神）とイザナミ（女神）の世の中になりました。この二神は兄と妹の間柄ですが同時に夫婦でありました。当時はエジプトのクレオパトラもシーザーと結婚する前は弟と結婚していたように王室の純粋性を保つため血族結婚が多かったようです。有名なツタンカーメン夫婦もそうでした。

イザナギ（男神）とイザナミ（女神）の二神は初夜を迎えた時、男神が女神に「あなたの体はどんな風に出来ているのか？」と尋ねたそうです。そうすると女神は「私の体は何もかも揃っていますが、まだ出来てない箇所がただ一カ所あります。」と答えました。すると男神が「我には体が完全に出来過ぎて余ったところが一カ所ある。従って私の余ったところをあなたの足りないところに差し塞いで子供を作ろうと思うがよろしいか？」と尋ねたそうです。それにより「まぐあい」すなわち性交が成就したそうです。

それからイザナギ（男神）の日本全土の征服の旅が始まりました。日本全土を征服した後、砂鉄の一大産地であり、鉄製の武器を生産していた比婆山連邦は国の中心にふさわしいとして、油木にある高天原（タカマガハラ）にて政治をされたそうです。現在、高天原の遺跡が残っているかどうか分かりません。その間、イザナミ（女神）の方は順調に三人の賢い神様つまり天照大神、月夜見神、須佐之男神をお産みになったそうです。

しばらくして華やかなお二人の暮らしに陰がさしました。それは4回目の妊娠は異常であったため、女神の体の変調を来し、不運にも加具土神という火の神を出産されました。そのため陰部は焼けただれ、体全体もただれて膿も出て、日本一の綺麗な顔も見ることがなくなりました。女神は失意のうちお隠れになりました。日本海方面に遠征中であった男神はこれを聞いて急いで島根方面から入山され、吾妻山に立って大声で「ああ吾妻よ！」と呼ばれたそうです。それが今の吾妻山の由来だそうです。この後、逢う、逢わせないで夫婦戦争になるのですが長くなるのでこの辺で終わります。ちなみに比婆山にある御陵にはこのイザナミの女神が祀られているそうです。ありがとうございました。

奉仕を通じて平和を

2012~2013年度RI会長
田中作次

幹事報告

1. 本日の配布物・・・①会報No.27号 ②ロータリーの友2月号
③ガバナー月信No.8号 ④抜粋のつづり
⑤2013~14年度理事・役員及び委員会構成表
2. 大之木ガバナーより、仙台空港モニュメント支援金のお礼状
3. 2月10日(日)東城応援隊インターアクトクラブ認証状伝達式に、滝川会長、田邊2名で出席いたしましたので報告いたします。

出席報告

会員数	36名	出席者	27名	MU	6名
欠席者	3名	出席率	91.66%		

スマイル報告

藤本会員・・・山口さん月例での優勝おめでとう！
山口会員・・・嬉しいことがありました。

■創立20周年事業部会

角田部会長

2月6日(水)、森本実行委員長と二人で庄原市長さんを訪問し、創立20周年事業であります、モニュメント設置についてお話をしてきました。今後は、総務課と都市整備課と連携をとりながら設置に向けて進めていくことになっております。以上、記念事業の経過報告をさせていただきました。

■2013~14年度 理事・役員発表

石原会長エレクト

お手元にお配りしておりますとおり、2013~14年度の理事・役員が決まりましたのでご報告いたします。皆様のご協力宜しくお願いいたします。尚、次年度クラブ協議会を2月21日(木)に開催いたしますので、ご出席宜しくお願いいたします。

■プログラム

健康サポート委員会担当



会員卓話

「ノロウイルスとIPS細胞について」

児玉医院 副委員長 児玉 節

ノロウイルス

日本ではかつて「お腹の風邪」と呼ばれていた。ノロウイルス属はヒトに経口感染して十二指腸から小腸上部で増殖し、伝染性の消化器感染症(感染性胃腸炎)を起こす。

症状

主な症状は、嘔吐・下痢・発熱で、症状には個人差があるが、主な症状は突発的な激しい吐き気や嘔吐、下痢、腹痛、悪寒、38℃程度の発熱で、嘔吐の数時間前から胃に膨満感やもたれを感じる場合もある。

感染経路

ノロウイルス属による感染症は経口感染が原因で、その感染経路から以下に大別できる。

1. 飲食物からの感染(感染型食中毒)

- a. 食中毒：ウイルスを蓄積した食材およびウイルスで汚染された食品を喫食して感染。
- b. 水系感染：水道水、井戸水などがウイルスで汚染され、その水を飲み感染。

2. ヒトからヒト

- c. 感染者の糞便や吐瀉物から手指を介して感染。(ドアのノブなどからもウイルスが発見される事例がある)
- d. 感染者の糞便や吐瀉物に排出されたウイルスが付着し、飛散した飛沫から空気感染。(飛沫感染或いは塵埃感染とも呼ばれる)
- e. 感染者が十分に手を洗わず調理した食品を食べ感染。(エタノールや逆性石鹼に対する抵抗性があり、水道

水に含まれる塩素にもある程度の耐性を持っているため、洗浄が不十分になりやすい) 販売あるいは調理提供する食品そのものの衛生管理の(食品衛生学的な)立場からは『飲食物からの感染』のケースが、院内感染などの感染管理の立場からは『ヒトからヒト』のケースが特に問題とされるが、症状や経過には感染経路による違いはない。

ノロウイルス属は、衣服や寝具、家庭用品、家具などの表面で数週間生存することができる。感染経路の遮断には手洗いや器具の洗浄が必須である、またアルコール(75%エタノール)では不活化されない。

ノロウイルス属の場合、10から100個程度の少数のウイルスが侵入しただけでも感染・発病が成立すると考えられており、わずかな糞便や吐瀉物が乾燥した中に含まれているウイルス粒子が空気を介して(空気感染で)経口感染することもあると考えられている。すなわち、嘔吐直後にエアロゾルとなったウイルスを直接吸引する、あるいは塵埃に付着したウイルスを吸引して感染することもある。これは、大多数集団感染(院内感染など)の原因として最近、重視されるようになってきた。

診断

研究用検査試薬としては、イムノサーチ®NV が上市されている。糞便中のノロウイルス抗原をイムノクロマト法により検査し、15分で結果が出る。臨床検査としては「クイックナビ-ノロ」が上市され、保険適用となっている。ただし健康保険では、3歳以下または65歳以上などの制約がある。

治療

2007年現在、ノロウイルス属に有効な抗ウイルス薬は存在しない。下痢がひどい場合には水分の損失を防ぐために輸液などを対症療法的に用いる場合がある。

家庭においては、経口補水液またはスポーツドリンクを人肌に温めてから飲むことが推奨される。これらが無い場合は0.9%の食塩水(100mlに食塩0.9gを溶かしたもので、いわゆる生理食塩水である)を調製し、人肌に温めて飲むことが推奨される。電解質を含まない湯冷まし、お茶などは水分の吸収が遅いので推奨できない。

感衛生管理

特に調理者が十分に手洗いすること、そして調理器具を衛生的に保つことが重要である。ノロウイルス属はエンベロープを持たないウイルスであるため、逆性石鹼(塩化ベンザルコニウム)、消毒用エタノールには抵抗性が強いが、手洗いによって物理的に洗い流すことが感染予防につながる。また、ノロウイルス属は60°C30分の加熱では感染性は失われず、85°C以上1分間以上の加熱によって感染性を失うため、特にカキなどの食品は中心部まで充分加熱することが食中毒予防に重要である。生のカキを扱った包丁やまな板、食器などを、そのまま生野菜など生食するものに用いないよう、調理器具をよく洗浄・塩素系漂白剤による消毒をすることも大事である。

iPS細胞について

胚性幹細胞(Embryonic stem cells)とは、動物の発生初期段階である胚盤胞期の胚の一部に属する内部細胞塊より作られる幹細胞細胞株のこと。英語の頭文字を取り、ES cells ES細胞(イーエスさいぼう)と呼ばれる。パーキンソン病などの神経変性疾患、脊髄損傷、脳梗塞、糖尿病、肝硬変、心筋症など根治の無かった疾患を将来的に治療できる可能性から、その研究を認める国などに対応が分かれている

山中教授らが作られたiPS(induced pluripotent stem cells)細胞はいろいろな細胞に分化できる機能を有しており、治療や薬効効果の判定、病気の成立過程の研究などへの応用が期待されています。

線維芽細胞にOCT3/4, SOX2, KLF4, C-MYCという4つの遺伝子を挿入すると、Fbx15遺伝子が発現し、iPS細胞が作成できたということです。iPS細胞は次の分化した細胞に発育します。たとへば、乳酸を加えると自動能を有する心筋細胞に分化していきます。この細胞を集めて心筋内に注入すると心筋症の治療になるということです。インシュリンを分泌する細胞作製が可能となれば糖尿病治療への道が開けることでしょう。神経細胞、心筋細胞、軟骨細胞あらゆる細胞の作製が基本的には可能です。

今後の研究の成果が待たれるところです。

1954-1955

